

救われる人々が加えられる教会

使徒の働き 2 章 37-47 節

はじめに

先週から四週にわたって、新約時代にできた最初の教会、「エルサレム教会」から教会のあり方を学んでいます。

今日は、どうしたら救われる人々が加えられる教会となるのか、を学びたいと思います。エルサレム教会は、ペンテコステの日に、ペテロの説教によって三千人が救われました。そして、47 節を見ると、その後も「**主は毎日、救われる人々を加えて一つにしてくださった**」とあります。

エルサレム教会は、最初、イエス・キリストの弟子たちを中心とする 120 名ほどの祈り会から始まりました。そしてペンテコステの時に、三千人が救われ、その後も毎日救われる人々が加えられていく教会となったのです。

エルサレム教会に救われる人々が多く加えられていったのは、イエス・キリストの御業です。「主は・・・救われる人々を加えて・・・くださった」と書かれている通りです。教会に救われる人が加えられるのは、人間の努力によるものではありません。イエス・キリストが御手を動かしてくださなければ、誰ひとり救われることはありません。

では、教会にできることは何もない、教会はただ救われる人が加えられるように祈ることしかできない、ということでしょうか？そうではありません。イエス・キリストは、教会の活動を用いられるのです。イエス・キリストは、教会の活動を通して、人々を救われるのです。では、教会はどんな活動をするべきでしょうか？

イエス・キリストに用いられ、救われる人々が加えられていったエルサレム教会は、どんな活動をしていたのでしょうか？

今日は、救われる人々が教会に加えられるためにどんな活動をすればよいのかを、エルサレム教会から学びたいと思います。

1. 罪を示す説教

エルサレム教会は、ペンテコステの日のペテロの説教によって生まれました。ペテロの説教を聞いた人々は、37 節にあるように、「**心を刺され、ペテロとほかの使徒たちに、『兄弟たち、私たちはどうしたらよいでしょうか』**」と言いました。

「心を刺された」というのは、「罪を示された」ということです。罪を示された人々は、どうしたらよいのか分からずに、「私たちはどうしたらよいでしょうか」と言ったのです。

ペテロの説教は、人々の罪を示す説教でした。もちろんペテロは後に、「罪の赦し」についても語りますが、罪の赦しを語る前に、人々に罪を示したのです。

私たちは、自分の罪が分からなければ、また自分が神様の前に罪人であることが分からなければ、いくらイエス・キリストの十字架による「罪の赦し」を語られても心に届きません。いくら神の愛、イエス・キリストの十字架が語られても、自分の罪が分からなければ、それを恵みとして受け取ることができないのです。自分の罪が分からなければ、新しく生まれることも、新しい人生を歩むこともできません。自分の罪が分かった人だけが、自分が神様の前に罪人であることが分かった人だけが、神様の恵みに感動し、神様を第一にして、神様のために生きるようになるのです。

救われる人々が加えられる教会は、人々にはっきりと罪を示すことができる教会です。

2. 悔い改めて、イエス・キリストの名によって洗礼を受ける

ペテロは、罪を示された人々に対して、38 節で具体的な解決策を提示します。「**それぞれ罪を赦していただくために、悔い改めて、イエス・キリストの名によってバプテスマを受けなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けます**」。

罪を示された人々に対する具体的な解決策は、二つあります。一つは「悔い改めること」、もう一つは「イエス・キリストの名によってバプテスマ（洗礼）を受けること」です。

「悔い改める」とは、何でしょうか。悔い改めるとは、反省することでも、後悔することでもなく、明確に方向転換をすることです。クリスチャンになるためには、イエス・キリストを信じるだけでなく、悔い改めることが必要です。悔い改めるとは、神に立ち返ることです。神に従っていくことを決心すること、神を第一にして生きていくことを決心することです。自分中心の生き方から神中心の生き方に、明確に方向転換をすることです。この決意と決心が、クリスチャンになるためには必要です。この部分を曖昧にしていると、クリスチャン生活も曖昧になり、名前だけのクリスチャン、ただ何となく毎週礼拝に行くクリスチャン、礼拝も行ったり行かなかったり、生活や人格は何も変わらない、成長もしないクリスチャンになってしまいます。クリスチャンになるとは、良い人になるのではありません。新しい人になるのです。自分中心から神中心に、自分第一から神第一に、人生を大転換させることなのです。

罪を示された人々に対する具体的な解決策のもう一つは、「イエス・キリストの名によって洗礼を受けること」です。イエス・キリストの名によって洗礼を受けるとは、イエス・キリストを信じて、洗礼を受けるということです。イエス・キリストは、私たちの罪の刑罰を受けるため、十字架に架されました。そして、私たちが新しい人生を歩むため、三日目に復活されました。イエス・キリストを心に迎え入れ、イエス・キリストを救い主として寄り頼む人は、すべての罪が赦され、イエス・キリストの復活の力によって新しく生まれ変わり、新しい人生を生きるようになります。つまり人生を大転換させることができるのです。その人生とは、聖霊に導かれて、自分中心から神中心の人生に、自己中心から

愛に生きる人生に大転換する新しい人生です。

悔い改めて、イエス・キリストを信じて新しい人生を歩み始めた人は、洗礼を受け、すべての罪が洗い流されたこと、新しく生まれ変わったことを人々に示すことが大切です。そして教会に加わり、クリスチャンとして歩み始めるのです。

救われる人々が加えられる教会は、人々が悔い改めて、イエス・キリストを信じ、明確に人生を方向転換する教会です。自分中心から神中心に、自己中心から愛に生きる新しい人生を生きる教会です。そして、洗礼を受けて、罪を赦された喜びと新しく生まれ変わった喜びに満たされる教会です。

3. 使徒たちの教えを守る

さて、ペテロの説教を聞いて、三千人の人が洗礼を受け、エルサレム教会が生まれました。では、生まれたばかりの教会はどのような活動をしていたのでしょうか？

42 節には、このようにあります。**「彼らはいつも、使徒たちの教えを守り、交わりを持ち、パンを裂き、祈りをしていた」**。

第一に、エルサレム教会は、「使徒たちの教え」を守っていました。「使徒たちの教え」は、「旧約聖書」を用いてイエス・キリストこそ救い主であると教えることでした。そして、その使徒たちの教えはやがて「新約聖書」にまとめられていきます。その意味で、「使徒たちの教え」とは、旧新約聖書のことです。

救われる人々が加えられる教会は、聖書の教えを守る教会です。

4. 交わりを持つ

第二に、エルサレム教会は、「交わり」を持っていました。エルサレム教会の「交わり」とは、45 節にあるように、**「財産や所有物を売っては、それぞれの必要に応じて、皆に分配していた」**というものです。つまり、彼らは自分の財産を献金し、それを貧しい人々に分け与えていたのです。

救われる人々が加えられる教会は、喜んで献金を献げ、貧しい人々や弱さを持つ人々に対して愛の業を行なう教会です。

5. パンを裂く

第三に、エルサレム教会は、「パンを裂いて」いました。これは、聖餐式を守っていたということです。彼らは、イエス・キリストの十字架をいつも忘れずにいたのです。

救われる人々が加えられる教会は、聖餐式を守り、イエス・キリストの十字架を決して忘れない教会です。

6. 祈りと賛美

第四に、エルサレム教会は、「祈り」と「賛美」（47 節）をしていました。

救われる人々が加えられる教会は、心から神に祈り、賛美をささげる教会です。

おわりに

このように、エルサレム教会は、人々に罪を示し、悔い改めて、イエス・キリストを信じる人に、洗礼を受ける教会でした。そして、聖書の教えと聖餐式を守り、献金を献げ、愛の業を行ない、讃美と祈りを献げる教会でした。このような教会を神様は祝福し、救われる人々を加えていかれたのです。

私たちの教会も、神様によって救われる人々が加えられる教会にならなければなりません。そのためにも私たちは、自分の罪をはっきりと認めなければなりません。そして、悔い改めて、イエス・キリストを心に迎え入れて、明確な人生の方向転換をしなければなりません。自分中心から神中心の人生に、自己中心から愛に生きる人生に方向転換して、新しい人生を歩み始めなければなりません。そうすれば、イエス・キリストの十字架の力によって、すべての罪が赦され、イエス・キリストの復活の力によって、新しく生まれ変わることができます。

そして、洗礼を受けて教会の交わりに加わり、聖書の教えを守り、イエス・キリストの十字架を決して忘れないために聖餐式に与かり、心から讃美と祈りをささげ、自分の財産の一部を献金として忠実に献げ、愛の業を行なっていくのです。

これこそ、救われる人々が加えられる教会の姿です。私たちの教会が、このような教会になっていくに、神様は救われる人々を私たちに加えてくださるのだと信じます。